

# 平成29年度 施策評価表

課・グループ名	生涯学習課学校教育グループ 生涯学習課学校給食センター
---------	--------------------------------

作成年月日：平成30年 9月28日

<b>施策名</b>	3 - (2) - ①農業を生かした学習機会の充実		
<b>1. 施策の現状分析及び展開方向</b>			
<b>政策・施策の体系</b>	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(2) 地域とともにある学校教育の推進	①農業を生かした学習機会の充実
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合的な学習において、受入農家の協力を得ながら田植えなどの農業体験学習を行い、農業・食育に対する理解を深めます。</li> <li>● 南幌産の米や小麦、野菜などを使用した学校給食を通じ、児童生徒や保護者へ地域の食文化や食に関する産業、自然からの恵みなど食の大切さについて伝える食育を行います。</li> </ul>		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校の総合的な学習では、農業体験・実践学習等を学習過程に組み入れ、本町の基幹産業である農業と食育に対する理解教育に努めています。</li> <li>● 中学校1、2年生の総合的な学習では、キャリア教育の一つとして、農業を通して働くことの体験に取り組んでいます。</li> <li>● 小中学校の食に関する指導の全体計画を踏まえた食に関する年間指導計画を各校で作成し、栄養教諭による指導を行っています。</li> <li>● 学校給食で旬の物や南幌産の食材を積極的に使用することで生きた教材となるよう食に関する指導の推進を行っています。</li> <li>● 毎月発行している「給食だより」に食事のマナーや規則正しい食習慣などの記事を掲載し、家庭における食生活改善の啓発を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合的な学習課程は国際理解、情報、環境、福祉、健康など多様なものがあり、年間を通じた農業体験等の時間確保に制限があります。</li> <li>● 南幌産の野菜などを積極的に使用するため、地元出荷団体や生産者の理解と協力が必要です。</li> <li>● 学校における食育指導と合わせ、1日の活動源となる朝ごはんをしっかりと食べることなど、生活の基本となる家庭での食習慣の大切さを伝えるため、さらなる啓発を行うことが必要です。</li> </ul>	

<b>2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況</b>								
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名			数値化	
	南幌産食材を学校給食に取り入れ、児童生徒や保護者が、町の主要農産物を身近に感じることで、農業体験学習や栄養教諭による給食指導などの食育を推進していくことができるため、南幌産食材の使用割合を成果指標として設定している。			成果指標 (総合計画・施策評価)			○	可能
				学校給食における南幌産食材の使用割合				不可能
				代替指標 ※成果指標がない場合				未計測
								指標の設定
				可能				
				不可能				
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。								
②指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由	
		H26	H27	H28	H29	H33		
目 標	%				25	25		
実 績	%	17	21	14	14			
達成率	%				56			
評価視点		評価結果				理由・課題・問題点		
③施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				<b>施策の達成度</b>  <b>B</b>	南幌産食材の品目(野菜等)が限られていることから、今後においても、目標達成に向けて、農協から食材生産状況の情報収集を行っていくことや、食材納入業者に南幌産を優先して納入するよう依頼することを継続して取り組んでいくことが必要である	
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)						
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)						
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)						

### 3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類

【必要性】事務事業の必要性

【妥当性】町の関与の妥当性

(1) 自主事業(自主)

(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの

(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業

(2) 施設管理事業(施設)

(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの

(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業

(3) 経常的事務(経常)

(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの

(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業

(4) ハード事業(ハード)

#### ①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	実績					H29実績	H30予算	
						単位							
1	総合的な学習事業	(1)	生涯学習課	対象児童生徒数 ①小学校 ②中学校	① 197	人	学校において、児童生徒が身近な問題に対して、自らが課題設定・作業計画・実施活動・体験発表等を行うことにより、実践学習を通じた生きる力を育み、実際の社会生活での課題解決能力を養うことを目的とした活動に対して支援する。	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	351	高い	
					② 167						① 202		② 168
2	学校における食育推進事業	(1)	生涯学習課	代替指標 ①南幌産食材使用率 ②南幌産米使用率 ③南幌産小麦使用率 本来の指標 南幌で生産されている食材を理解した児童生徒数及び保護者数	① 25	%	小中学校が食に関する指導の全体計画を踏まえて作成している食に関する年間指導計画に基づき、旬の食材や南幌産の食材を積極的に使用した学校給食を通じて、栄養教諭による食に関する指導を行う。また、南幌で生産されている食材の理解浸透を図ることや地産地消、子育て支援の一環として、南幌産米や南幌産小麦を使用した麺及びパンの費用を町が負担する。	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	28,831	高い	
					② 100						③ 50		① 14

年度別施策全体の事業費合計(千円)

H29事業費	29,182
H30予算	29,567

#### ②H30に実施した新規事務事業

実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1				

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	・学校における食育推進事業 学校給食に米や小麦、野菜などの南幌産農産物を活用することで、小中学生や保護者に対し、食材への感謝の気持ちや主要農産物に対する理解を深めることや食育を推進するために必要な事業である。 ・総合的な学習事業 農業と食育に対する理解をさらに深めるため、総合的な学習に対する各児童生徒の取組みを充実するために必要である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	

事業構成の妥当性

A

#### 4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の方向性  優先度 A~D (ランク)	事業番号				平成30年度以降の予算の方向性
			A				
			B	1			
			C	2			
			D				
			○	拡大			
				維持			
				縮小			